事例番号 18

（１）タイトル

ネットワークの無線ＬＡＮ化と病弱の児童生徒にノートパソコンを割り当て，学校・病院いずれでもインターネットを利用できるようにした事例

（２）事例の対象となる児童生徒について

本校の希望する児童生徒すべて

（３）使用する機器（支援機器）名称と特長

①支援機器の名称

a. 「無線ＬＡＮa/b/g （メルコ）」

b. 「ノートパソコン（Lenovo１５インチ）」

②特長

a. 無線が届く範囲でインターネットに接続することができる。
机や場所に合わせて機器を設置できる。

b. 寝た状態でも見ることができる。
病院と学校において同じ環境で使うことができる。
設置が容易であり，授業でも使いやすい。

（４）使用した機器を選定した理由

本校の児童生徒はほぼ全員車いすに乗車しており，乗車したままパソコンを使用できる環境ができればよいと以前から考えていた。また，生活の場である病院と学習の場である学校とのシームレスなネット環境を構築し，日常的にパソコンを使用し QOL の向上につなげたいと考え，無線 LAN とノートパソコンを選定した。

（５）選定のプロセス

校舎改築と同時期に校内情報化に関する予算がついたため，無線 LAN 機器を購入した。工事は業者が行ったが，細かい設定は本校情報部でおこなった。また，併設病院のネットワーク環境に合わせるため，パソコン付属の無線環境切替ソフトを使い，学校の電波を拾うと学校の設定，病院の電波を拾うと病院の設定に切り替わるように設定した。導入当時は病院のネットワークは自由に使用できる状態ではなく，交渉が必要であった。

（６）個別の指導計画と個別の教育支援計画

とくになし

（７）指導の内容

情報の授業等を通して，情報モラルを教え使用するなかで疑問があればいつでも聞くよう指導した。

（８）支援機器の使用効果あるいは，指導の効果と支援機器の評価

学習の場でインターネットを有効に使った授業をし，生活の場である病院でもパソコンを活

用し学習する，電子メールやチャットなどでベッドの隣どおし，病棟を超えてコミュニケーションをとるなど生活の一部として活用できるようになってきた。
以前では自分専用のパソコンがなく，学校のデスクトップパソコンを使用するのみであったが，一人ずつパソコンがあたり，パソコンのいろいろな機能を探究する児童生徒が多かった。パソコンを怖いものではなく，便利なものととらえることができるようになってきた。

（９）まとめと今後の課題

無線ＬＡＮはチャンネルが重なると速度が低下したり，通信ができなくなるなどの弊害もあるので注意が必要なことと，暗号化していないと外部からネットワークに容易に侵入できてしまうので，セキュリティ対策は万全にしていく必要がある。児童生徒が危険なことをすると困るので，どうしても規制をしてしまいがちであるが，しっかりと情報モラルを指導するなかでいかにパソコンを使っていくか，卒業後の必須ツールとして活用させていくかが重要である。

（10）文献（引用文献・参考文献）

写真１
情報の時間はパソコンを開くだけでインターネットに接続でき，病院に持ち帰っても接続が切り替わる。

写真２
それぞれの机でパソコンを使用する様子

※　本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブック－４９例の活用事例を中心に学ぶ導入，個別の指導計画，そして評価の方法－」(2012/3)に記載された内容である。